

JISA技術コンテスト第4回

技術コンテスト 第4回 参加費無料

SDGsの観点で フードデリバリーサービスの 危機を救おう!

AIエージェント
AIエージェントを作ってみよう

連合チーム
他の会社とチームを組んで挑戦しよう

CONCEPT

- ▶若手エンジニアを対象に楽しく総合的な技術の研鑽ができるコンテスト
- ▶カーボンニュートラルを体現するフードデリバリーシステムを開発

開催期間 | 2025年 11月18日(火)~12月4日(木)

申込期間 | ~ 2025年10月17日(金) 申込受付中!

一般社団法人情報サービス産業協会
技術コンテスト実行委員会

技術コンテスト 第4回 SDGsの観点でフードデリバリーサービスの危機を救おう!

イベント内容

クラウド環境 (AWS) で アプリ開発! 生成AI活用、トラブルシュート、 データ分析結果、技術課題達成度を 評価チームが採点!	アプリの実装や出題される技術課題に チームで挑戦! 総合得点の高いチームを 最終日に表彰! (各チームへのフィードバックもあります)
---	--

詳細スケジュール

- 2025年11月18日(火)
ガイダンス TJKプラザ (オンライン併用)
- 2025年11月18日(火)~12月4日(木)
課題実践 ※参加チームごとにリモートで作業
- 2025年12月4日(木)
課題締切
- 2025年12月5日(金)~2026年1月13日(火)
評価期間
- 2026年1月14日(水)
評価・表彰 場所: JJK会館 (オンライン併用)

参加対象 ▶JISA会員企業に所属する入社3~5年目の若手エンジニア
▶1チームあたり最大5名で、チームごとにエントリー

申込期間 ▶2025年9月18日(木) ~ 10月17日(金)

定員 ▶40チーム

申込先 **技術コンテスト第4回 募集要項**
(詳細はこちらをご覧ください) <https://www.jisa.or.jp/XXXXXXXXXXXXXX>

開催場所アクセスマップ (PDF)

TJKプラザ <https://www.tjk.or.jp/https://tjk-plaza>

JJK会館 <https://www.jjk.or.jp/organization-manageme...>

お問い合わせ 一般社団法人情報サービス産業協会 技術コンテスト実行委員会
TEL: 03-5289-7651 E-mail: tech_contest-owner@jisa.or.jp

多様な技術課題に挑戦し、
学びながら得点を競います

第4回の新要素
「AIエージェント」
「連合チーム」

+

「カオスエンジニアリング」
第3回から継続

開催期間
2025/11/18~12/4

課題シナリオ



SDGsの観点でシステム改善に取り組み、フードデリバリーサービスの危機を救おう！



FY23

コロナも落ち付いた影響で、離職者増。効率化が求められる状況。サービス収益性向上を図る。

・データ分析
(問い合わせ対応効率化、EVバイクの消費電力削減)



FY24

利用者也拡大し、安定したサービス提供に向けてレジリエンスの向上が叫ばれている。また、AI活用で新規サービス追加のスピード向上を図る。

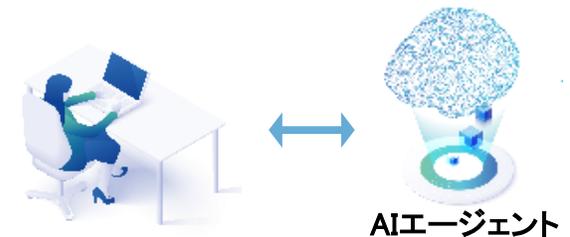
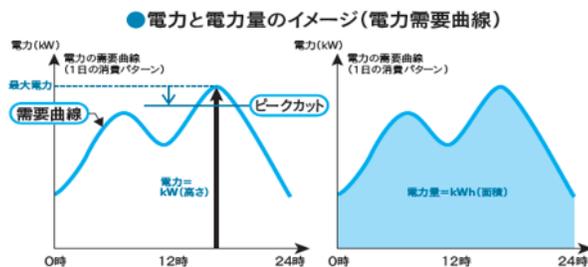
・カオスエンジニアリング
・AIコーディング



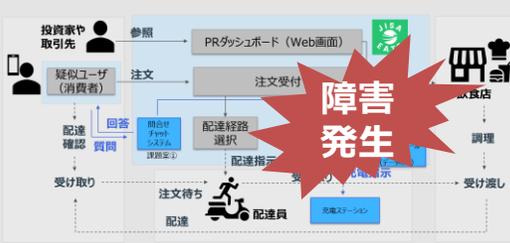
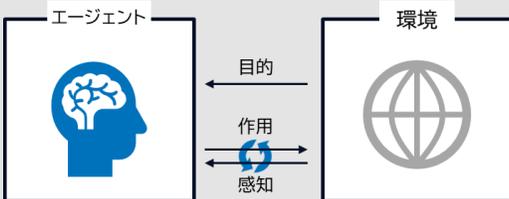
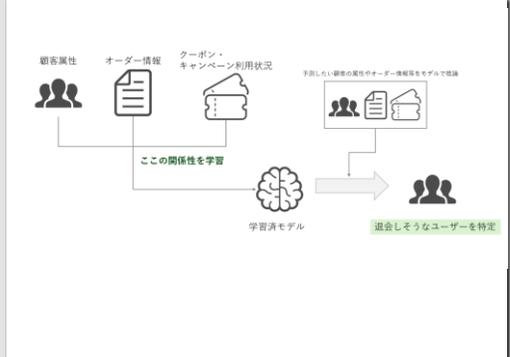
FY25

急激な物価高で、デリバリーサービスの利益率が悪化してきており、生成AI活用によるコスト削減が急務になってきた。
また、利用ユーザー拡大に伴いシステムトラブルの影響が大きくなってきておりトラブルシュート力の強化が求められている。

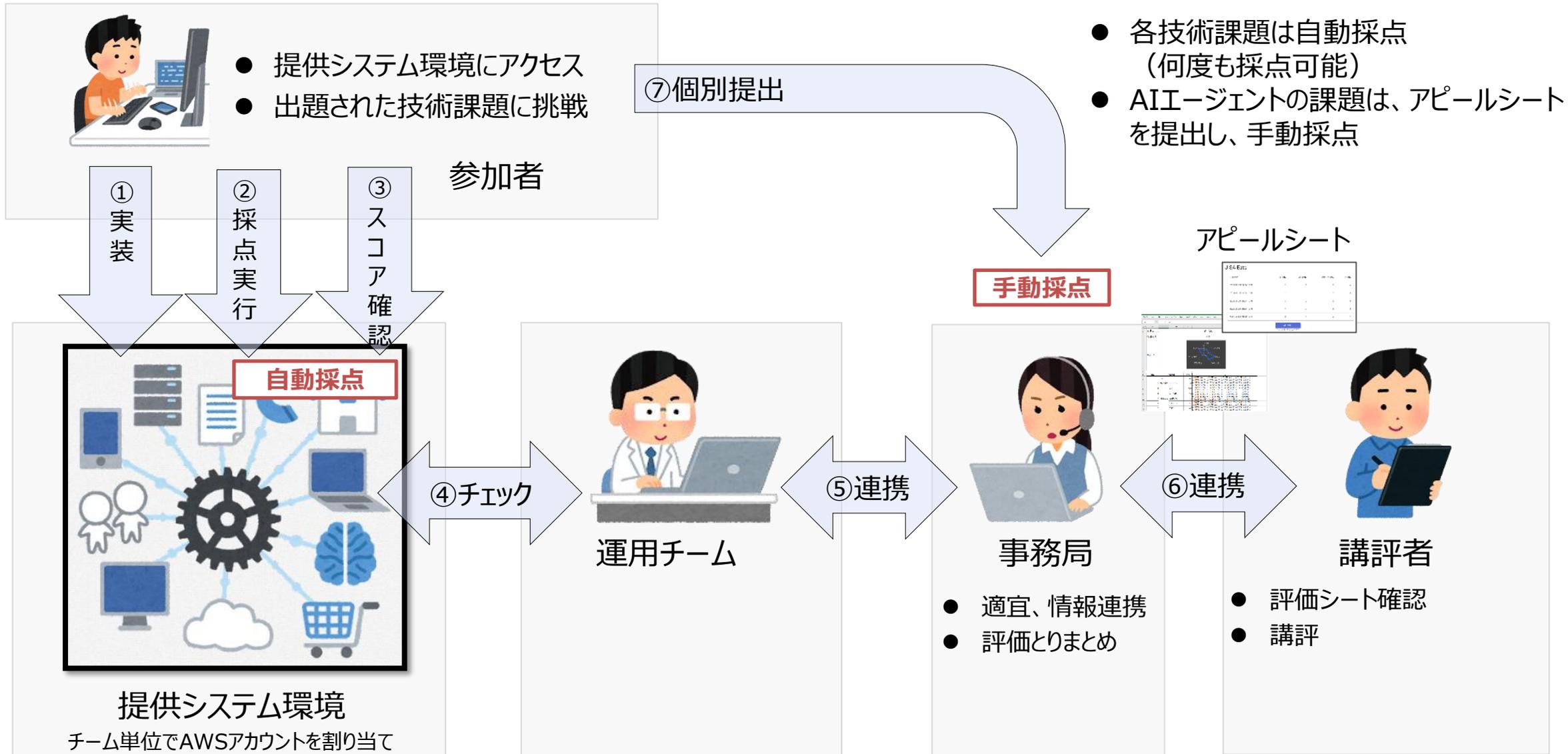
AIエージェント



出題内容

	カオスエンジニアリング 100点	AIエージェント 100点	データ分析の優秀さ 100点	技術課題の達成度 600点
概要	特定のタイミングで障害を発生させ、多発的に発生した障害を迅速復旧	AIエージェントを開発に適用 開発プロセスの工夫点をレポート提出、 審査員が評価	データ分析の予測精度に応じてスコア を付与	各領域の課題達成でスコア付与
評価 対象 イメージ	 <p>・最初から顕在化している障害に加え、ある時点で新たな障害（Level3）が発生 ・チームでどれだけ解決できるかを競う</p>	 <p>・AIエージェントを用いて機能追加 ・システム開発への生成AIの実践的な適用方法、工夫点を整理</p>	 <p>データ分析問題</p>	 <p>各技術課題で3タイプの難易度レベル</p>
狙い	障害に対処するための原因の調査から仮説立案、対処までをひとつとori実施する	AIエージェントの活用方法に触れ、抜本的なシステム開発の変化を体感する	アプリケーション開発だけでなく、データ分析技術に触れ、データ利活用まで考えて実践する	個人の技術スキルを最大限発揮し、問題や課題を実践
	チームワーク力重視		個人の技術力重視	

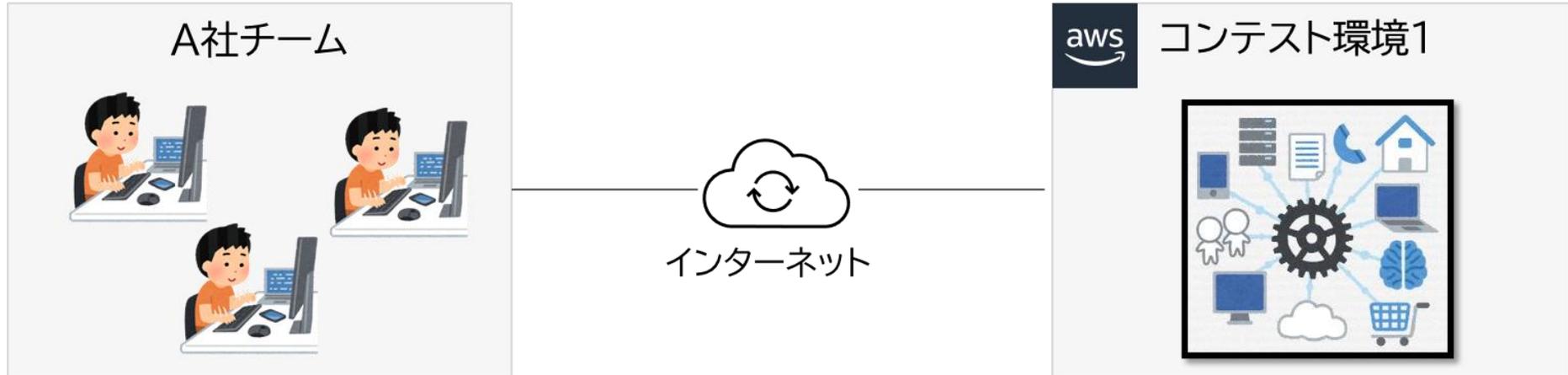
出題解答と評価の流れ



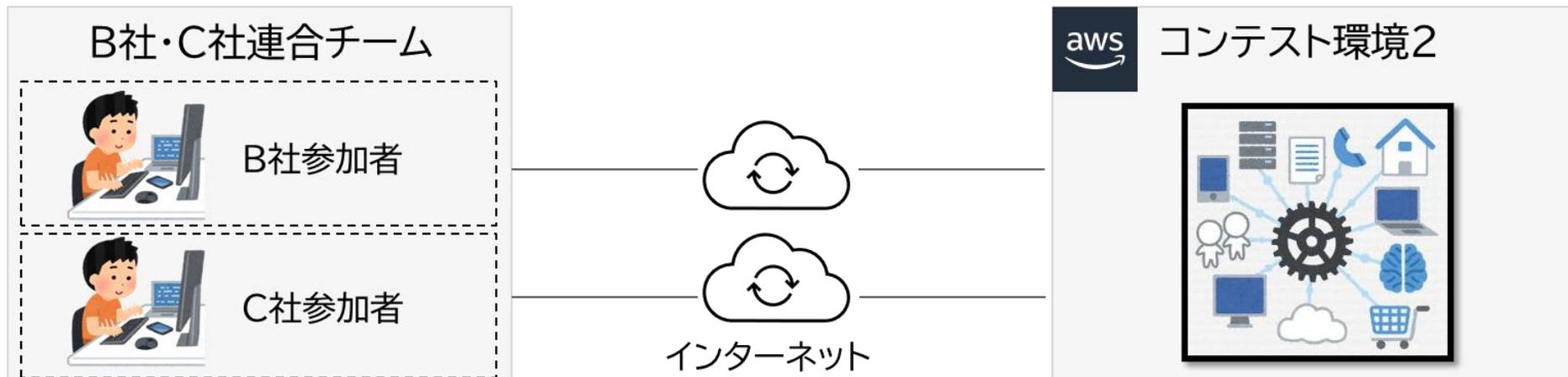
連合チーム

会社単位のチーム参加（1チーム最大5名）または他社との連合チーム（各社1名から申し込み可）での参加ができます
 連合チームの組み合わせは、「開発経験」「得意な技術領域」を考慮して事務局側で実施します

会社単位の
チーム参加



連合チームでの
参加



(参考)
FY24 技術コンテスト第3回

目的

会員企業の若手エンジニアを対象に、楽しく総合的な技術の研鑽ができる場を提供し、
学びにつなげる

結果

会員企業から26社135名が参加しアンケートでは86%が満足と回答
「AIコーディング」「カオスエンジニアリング」の新要素追加



ガイダンス会場風景



表彰式

技術コンテスト第3回は、26社・29チーム・135名の方にお申し込みいただきました

(参加企業一覧 ※お申し込み順、敬称略)

- 株式会社構造計画研究所
- 日本電子計算株式会社
- TDCソフト株式会社
- 株式会社インフォメーション・ディベロプメント
- 株式会社菱友システムズ
- 株式会社ワイ・シー・シー
- 情報技術開発株式会社 (2チーム)
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社CIJ
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社リンクレア
- 株式会社NTTデータフロンティア (2チーム)
- 三菱総研DCS株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- 東芝デジタルソリューションズ株式会社
- 株式会社DTS
- 株式会社シイエヌエス
- 株式会社R Y・コーポレーション
- 株式会社TOKAIコミュニケーションズ
- 株式会社NBE (2チーム)
- 株式会社アイヴィス
- 株式会社ユー・エス・イー
- NTTテクノクロス株式会社
- 株式会社アルファシステムズ
- 株式会社シーエーシー
- 株式会社プレアデスセブン

※赤文字は前回参加企業

表彰結果

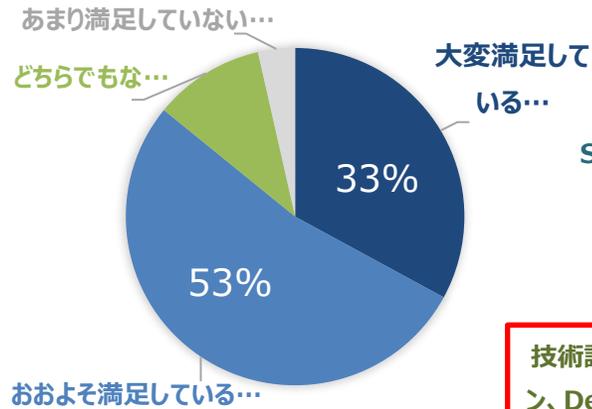
受賞されたチームの皆様、おめでとうございます

総合優秀賞 第1位	株式会社DTS 様
総合優秀賞 第2位	株式会社アイヴィス 様
総合優秀賞 第3位	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 様
データ分析優秀賞	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 様
技術課題解決優秀賞	株式会社DTS 様
AIコーディング ユースケース特別賞	株式会社インフォメーション・ディベロップメント 様

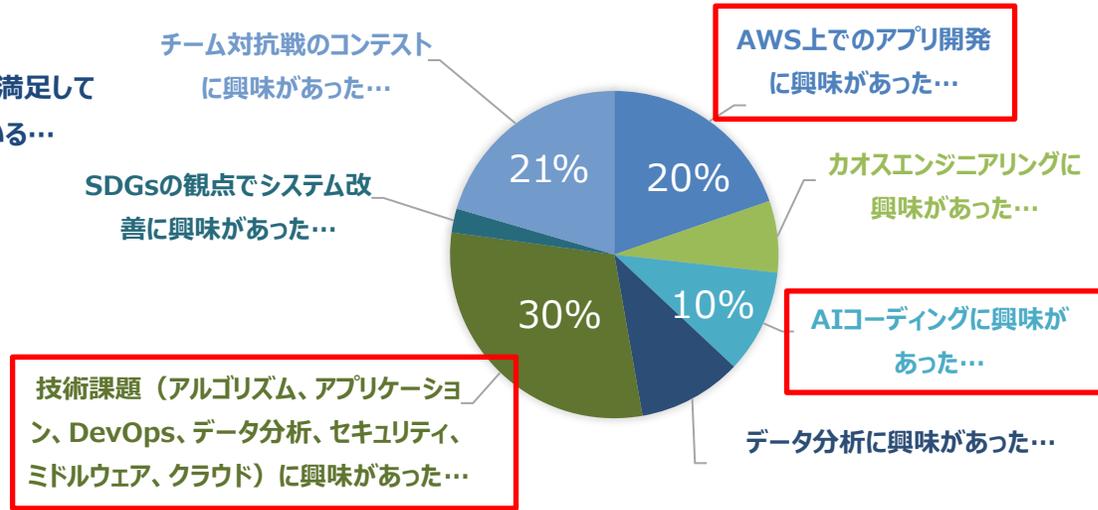
※技術課題：クラウド、ミドルウェア、セキュリティ、アプリケーション、DevOps、アルゴリズムの6技術テーマ

アンケート結果

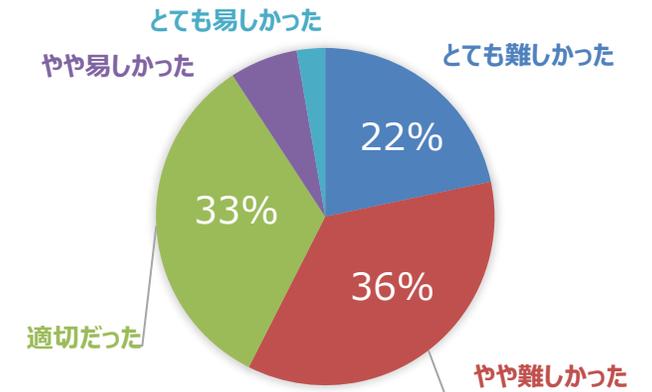
満足度



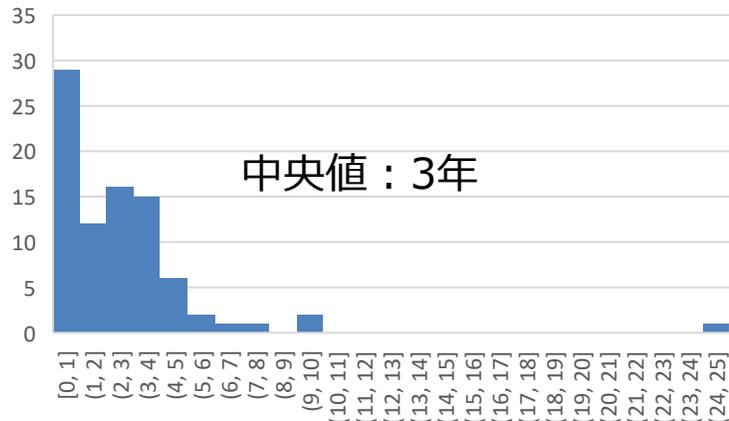
参加理由



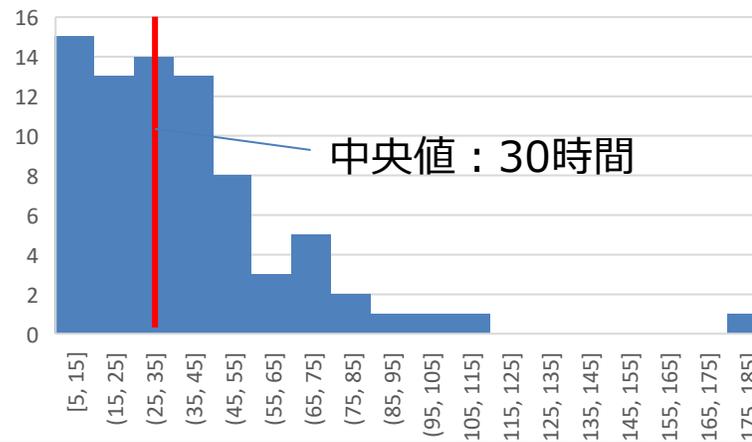
難易度



開発経験



課題対応時間



- 全体的な満足度は高い
- 基礎技術の課題はニーズが高い
AI活用は急速に進んでいくため、今後ニーズは高まっていく
- 若手メンバーの参加が多く、難易度が高いと感じている参加者も多い
一方で全領域回答しているチームもあり難易度の高さは必要
- 時間確保の難しさの声も多く、課題のボリュームは要調整